

1. 職名・氏名 准教授 長谷川小真子

2. 学位 学位 修士 専門分野 看護学 授与機関 福井県立大学 授与年月 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神保健Ⅰ（2単位 毎年開講）1年前期 オムニバス講義	
② 内容・ねらい 保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、各専門領域の学習につなげることを目的とする。 1.精神の発達と機能について理解できる。 2.ストレスとその反応について理解できる。 3.社会における精神保健の現状と課題、および対策について理解できる。 4.自分自身のメンタルヘルスの維持・増進に活用することができる。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本科目は保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、各専門領域の学習につなげることを目標としている。日常生活での体験や社会で起こっている精神保健に関する出来事を教材として取り上げ、看護学科・社会福祉学科の1年次生が精神保健に関する問題（虐待、自殺、依存症等）に関して個別学習を充実させる授業を行った。また、授業に関する感想の記述をもとに教授方法の調整を行った。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学概論（1単位 毎年開講）2年前期	
② 内容・ねらい 精神看護学の意義・目的・機能および精神看護学が取り扱う精神健康、精神障害の意味を理解する。これを基盤として、様々な場や状況における精神看護学の展開に必要な基礎知識を理解する。 1.精神看護の意義・目的・機能が理解できる。 2.精神看護の基本的な技法が理解できる。 3.精神看護学の発展の経過を理解し今後の精神看護学の発展を考察できる。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 精神看護学の目的・目標、機能などについて初学者にも理解しやすいように、こころの健康やこころの元気を支える看護と説明することを通し、精神看護学の概要について教授した。今年度は遠隔授業であったため、講義時間内に確認テストを実施し、学習内容の理解度を確認した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学（2単位 毎年開講）2年後期	
② 内容・ねらい 精神看護実践に向けた基本的知識の獲得を狙いとする。こころの健康・不健康の捉え方、精神障害の病理的特徴及び治療経過についての知識を得る。障害が生活に及ぼす影響を理解し、具体的な看護実践の展開に必要な知識を得る。 また、精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患、精神科における各種検査や各種治療法（精神療法、精神科薬物療法など）および精神障害に対する心理社会的リハビリテーション	

の概要などを理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、主要な精神疾患に関して、病因・症状・診断・具体的な看護の展開例を示している。幻聴の疑似体験など適宜、視聴覚教材等を使用しながら、精神疾患を患うことの意味や生活のしづらさを学生が理解しやすいよう、講義内容を構築している。また、内容毎に確認テストを実施し、正答率が低い内容に関して解説するなど、精神看護を実践するうえで基盤となる基礎知識の習得や看護実践の概要理解の定着に努めた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学演習（1単位）3年前期
② 内容・ねらい 精神の健康問題を持つ人に対して、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学修する。また、精神の健康問題を持つ人に対する看護展開の方法について、精神看護の重要な技術である治療的関係性を活用した看護展開と、対象者のセルフケアの再構築に向けて、対象者の持てる力を見つけ伸ばし育てることに焦点を当てた看護過程の展開方法を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護過程の展開については、主要な精神疾患の紙上事例を設定し、グループワークおよび個人学習を組み合わせながら、学生が具体的な看護援助を実践できるよう、講義内容を構築している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護発展セミナー（1単位）4年前期
② 内容・ねらい 既習の精神看護学関連の学習内容を踏まえた上で、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方や精神看護の専門性とは何かを探究する。 具体的には、今日、精神看護学領域において注目されている事柄（精神障害者の疾病との付き合い方、精神障害者の退院支援や地域生活支援、家族支援など）から、学生自身が問題意識を持ったテーマを選択し、テーマに関連する文献検討を行う。そして、実際の現場に出向き、対象者や看護職者との意見交換等から得られた各自の学びをプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 セミナーでは、学生の主体性・自主性を最大限に尊重した。「課題設定」では、自ら探究したい「テーマ」を設定し、文献検討を行い、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方を考察した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学実習（2単位）3年生
②内容・ねらい 実習体験を通して、精神の健康の維持・増進、回復するために必要な知識・技術・態度を統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習では、初めて精神障害者と関わる学生がほとんどであり、不安や緊張が強いため、特に学生の反応に留意しながら、実習目標が達成できるよう指導にあたっている。 患者の精神症状の理解に関しては、患者の言動の意味を学生と共に考え、病的体験により日常生活が障害されている部分を支持しながら、患者の強みを生かして、患者が主体的に生活できる力を身につけるために必要な看護実践を指導している。 実習を通して、学生は治療環境としての自己を振り返らざるを得ない機会があり、学生にと

っては「自分を見つめる」辛い作業になることもある。このような時は、学生が自分の感情や価値観に気づけた事を支持し、自己の課題（自己の感情表出や対象者の気持ちをくみ取る等）を明確にし、課題達成ができるよう指導にあたっている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究：精神看護学（3単位）4年生
②内容・ねらい 科学的思考を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は遠隔授業であったため、週1回のゼミを継続し、文献検索や研究手順についての既習状況の確認を丁寧に行った。学生の主体性を尊重すること、学生自らが研究プロセスを踏んでいると自覚できること、そのプロセスを的確に文章表現できるようにサポートした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神健康学特論（2単位）研究科共通科目 1年前期 オムニバス講義 ※隔年開講
②内容・ねらい こころの健康な状態と病気の状態を理解し、その予防と治療・リハビリテーションについて学ぶ。メンタルヘルスの課題を抱えた対象者に、ケアやサポートを行ったり、またそれらを研究していく場合に必要となる主要な概念について学ぶ。
② 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 精神保健における最新の基礎知識に関して、視聴覚教材等も活用しながら教授した。院生には「精神保健」に関する主要な課題やそれらの関連文献についてディスカッションを行い、院生にもプレゼンテーションを課しながら、精神的健康への支援者として、論理的思考が深まるような講義構築を行っている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学特論（4単位）研究科看護学専攻 1年前期
②内容・ねらい 精神保健や精神看護に関する動向や理論、研究に向けた理解を深める。 精神科リハビリテーションと地域生活自立支援への現状と課題、看護の役割について考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 精神保健や精神看護学に関する主要な課題やそれらの関連文献についてディスカッションを行い、院生にもプレゼンテーション課しながら、精神看護学への理解や論理的思考が深まるような講義構築を行っている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学演習（2単位）研究科看護学専攻 1年後期
②内容・ねらい 精神看護学領域における文献検討を行うことで、精神の健康における看護の課題を研究レベルで探求する。また、研究課題を達成するための研究方法を学習し、自己の研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 院生が自分の興味・関心、問題意識から研究テーマ・研究目的が明確にできる過程を重視した演習内容の構築を行っている。院生が主体的に意欲を持って取り組むことができるよう、自己の研究テーマに沿った多くの論文の精読を通して、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションの方法と論理的・科学的思考力が身につくよう、演習内容を工夫している。また、思考のプロセスを的確に表現し、研究計画書が作成できるようにサポートしている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学特別研究（10 単位）2 年通年
②内容・ねらい 研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察等論文作成までの研究過程を展開する。特論、演習での学修内容を発展させ、精神保健および精神看護の質の向上に寄与できる課題に取り組み、研究論文を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 院生が社会人であり、非常勤講師とともに、院生の都合に合わせて指導時間の設定を行った。院生自身が研究結果の意味を理解でき、考察が深められるような指導を行っている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【 本】
② 学術論文（査読あり） 「A 県の訪問看護師が希望するフィジカルアセスメント研修会の実施方法に関する調査」藤井徹也、山口直己、栗田愛、佐藤美紀、西尾亜理砂、 <u>長谷川小眞子</u> 、箕浦哲嗣、酒井一由、中山和弘、篠崎恵美子、豊橋創造大学紀要 24 号、p.39-50、2020 年 3 月。 【1 本】
③その他論文（査読なし） 【 本】
④学会発表等 1.「訪問看護師のための事例演習を取り入れたフィジカルアセスメント研修の検討」、藤井徹也、山口直己、篠崎恵美子、栗田愛、 <u>長谷川小眞子</u> 、箕浦哲嗣、佐藤美紀、西尾亜理砂、中山和弘、日本看護研究学会雑誌、43 巻 3 号、p 543、2020 年 9 月。 【1 件】
⑤その他の公表実績 【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績 ・令和 2 年度科学研究費補助金（研究代表者：豊橋創造大学教授 藤井徹也） 基盤研究(B)訪問看護師のための高度フィジカルアセスメント実践教育ツールの構築 研究分担者 ・令和 2 年度科学研究費補助金（研究代表者：豊橋創造大学教授 藤井徹也） 挑戦的研究（萌芽）AI を活用した在宅医療における多職種の情報一元化を可能とする連携システムの開発 研究分担者
(3)特許等取得
(4)学会活動等 ・日本精神科看護協会 福井県支部看護研究発表会 論文査読委員（H28～現在に至る）

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 1) 「福井 ARC を支援する会」事務局 (R2.4～現在に至る) 事務局として「福井 ARC を支援する会」の開催・運営、財務 (会員会費納入、出納管理等)、庶務全般を行っている。 2) 「福井 ARC を支援する会」運営会員 (H26.6～現在に至る) 運営会員として月 1 回委員会参加し、福井 ARC を支援する活動に参加している。
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 1) 「福井刑務所 処遇カウンセラー (薬物担当)」 (R2.4～現在に至る) 薬物依存離脱指導に関する業務支援として教育専門官とともに月 1 回の講義に参加し、アドバイザー的な役割を担っている。
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 1) 勝山市職員心の健康相談室 相談員 (H26.4～現在に至る) 2 月に一度、職員のメンタルヘルス相談業務にあたっている。 2) 福井県看護協会 保健師・助産師・看護師実習指導者講習会 「精神看護学」および「精神看護学実習の実際」講師 (H25～現在に至る)
⑥ 公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの楮の開催
⑦ その他

6. 大学運営への参画

(1) 補職
(2) 委員会・チーム活動
<学部> 論集編集委員会 (R1～) 大学院看護学専攻 (博士課程) (仮称) 設置プロジェクトチーム委員 (R2.10 まで) 大学院前期修士課程 WG (R2.12～) <学科内> カリキュラム検討委員会、コアカリキュラムモデル会議委員、実習検討委員会、 3 年生学年担任 (副担任)、職場委員
(3) 学内行事への参加
(4) その他、自発的活動など